

平成24年8月9日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活) 国際ボランティアセンター山形 (IVY)
(NGO 相談員氏名) 安達三千代

NGO 相談員による出張サービス実施報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので御報告致します。

1. 企画名：【形態：イベント・セミナー】せんだい地球フェスタ 2012
2. 出張者氏名：(副) 阿部眞理子
3. 協力団体名／依頼元団体名：せんだい地球フェスタ実行委員会
4. 実施日時：平成24年7月29日(日) 10:00～17:00
5. 実施場所：仙台国際センター 仙台市青葉区青葉山
6. 実施概要及び対象者：

実施概要：仙台国際交流協会が入っている仙台国際センターを会場として、国際協力、国際交流、外国籍市民団体や多文化共生団体等が一堂に会して「せんだい地球フェスタ」を開催。IVY では、ブースと「国際理解教育まるわかり」の部屋に相談コーナーを設置し相談に応じた。

対象者：来場者 仙台市民 4,300名

7. 内容：

(1) ブース出展

IVY のユースチームがカンボジアの小学生向けに算数ドリルを作成し、学校に寄贈する活動を行っている。また、自分たちと世界の環境とのつながりをテーマとした「地球子どもキャンプ」の企画運営も行っており、それらの活動の説明を行った。

(2) 国際理解教育まるわかり

IVY は JICA 東北、仙台国際交流協会、宮城教育大学との連携事業である「宮城国際理解教育推進連絡会議」の幹事団体となっている。今回、その事業の一環として、会議室において「国際理解教育まるわかり」という企画を行い、その一角に相談コーナーを設けた。

所感：昨年より来場者が増えたこともあり、開催中、IVY のブースに立ち寄る来場者が途切れることなく続いた。NGO 活動に関心のある人、教育支援に興味のある人、ユースの活動に参加したい人など、様々な来場者が訪れた。また、国際理解教育まるわかりのコーナーでは、市内の教員や大学生などが訪れ、学校での授業の展開方法などの相談があった。

以上



開発教育の相談



IVYブースの様子



国際理解教育まるかじりの相談コーナー



学校での開発教育のワークショップの成果
について、中学生や先生方との話し合い

2012年8月3日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 国際 NGO による福島での支援活動及び国際協力でのキャリアパスについて

開催日時： 平成 24 年 7 月 3 日（火）13 時 05 分～14 時 35 分

7 月 4 日（水）10 時 45 分～12 時 15 分

主催者： 広島修道大学法学部国際政治学科

場 所： 広島修道大学

出張者： 特定非営利活動法人 難民を助ける会 堀越芳乃

参加者： 7 月 3 日約 50 名、4 日約 15 名

実施内容：

3 日の講義では、まず当会の福島県での東日本大震災被災者支援活動について紹介した。震災直後の支援物資配付や、仮設住宅入居者への生活必需品の提供等の活動紹介に加え、宮城県や岩手県での活動と異なり、福島では放射能問題が支援活動にも大きく影響を与えていることを説明した。またキャリアパスの話では、出張者自身の大学・大学院での専攻や、学生時代に参加したインターンシップ、途上国での勤務、現在携わっている業務などを紹介した。

4 日は質疑応答を中心として授業を行った。国際協力が必要とされるスキルについて、また福島でのボランティア活動に参加した学生からは被災者との接し方や支援内容などについての質問が挙がった。

所感：

東日本大震災の被災者・被災地域の現状については、報道も減っており、少しずつ人々の関心が薄れてきている。そうした中、多くの学生生徒が、福島県内及び県外への避難者の総数が現在でも 16 万人以上にも及ぶことに驚いている様子であった。現在の問題を直接伝えることで、関心を再び喚起することができたように思う。

また、東北での活動と国際協力活動を組み合わせて話すことで、人道支援をより身近な問題として認識してもらうことができた。



7 月 4 日国際開発論（中央奥が堀越）

平成 24 年 7 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告について

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：シンポジウム「南スーダン独立から1周年：二つのスーダンの今」
2. 出張者氏名：佐伯 美苗（スーダン担当）
3. 依頼元／主催等団体名：（独法）国際協力機構アフリカ部
4. 実施日時：平成 24 年 7 月 13 日 18 時 00 分～21 時 00 分
5. 実施場所：JICA 地球ひろば（東京都港区広尾）
6. 実施内容と効果・所感：

当日は、学生・一般社会人、また NGO・JICA 関係者が 78 名参加、スーダンの位置関係がおぼつかないという方から、現地駐在経験者まで話題の焦点をしばることが難しい構成であった。

JICA の 2 所長からそれぞれの国家の政治的背景、政治経済状況の説明があり、暫定統治地域についての説明を行った。

【主な質疑応答（回答は JVC 部分のみ）】

- 政治的に不安定さを増している中で、「復興支援」はどう行われているのか。
→ JVC が事業を実施している（旧）暫定統治地域については、目下は「復興支援」を行なえる状況ではなく、緊急対応として捉えられるもの。現在、住民は紛争によって心ならずも分断されて生活しており、将来再び地域に帰還した後の社会の再統合が困難になることは想像がつく。できれば分けられた人たちをつなぐお手伝いもしたいが、それは大きな危険を伴い、容易に手出しはできない。
- 難民を受け入れ、帰還民が戻っている南スーダンで今後経済的な見通しはたつのか。
→ 個人の家庭についていえば、親戚などと一緒に住み、援助を受けたり出したりして生活しているようで、なんとかなる場合が多いようだ。しかし、国家

については、今般の石油パイプライン使用料が決着しておらず、生産を凍結させているために歳入 95%減という尋常でない事態に陥っており、国民の福利厚生に尽力する政府になるにはまだ遠いという印象。

【当日写真】



開始時の会場の様子。



質問に答える相談員。隣席は森 JICA ハルツーム所長。

以上

平成 24 年 8 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人
横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施報告について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 団体名：

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2. 出張サービス企画名：

「港南台国際協力まつり 2012」における相談対応サービスの実施

3. 実施日時：

平成 24 年 7 月 29 日 (日) 15 時 30 分～20 時 00 分

4. 実施場所：

港南台テント村 (横浜市港南区港南台)

5. 企画の概要

地域発の国際協カイベントである「港南台国際協力まつり 2012」の会場内に相談コーナーを設置して相談対応サービスを実施した。国際協カへの理解促進と NGO 制度の広報を実施した。共催団体の「港南台タウンカフェ」は、区民活動支援センターのランチとしても機能しているまちづくりやソーシャルビジネスの指導育成分野で地域をリードしている団体であり、活動分野を越えた連携の場で NGO 相談を実施することにより国際協カ分野以外の層に対しての国際協カの理解促進を図った。サービス対象者は、一般市民、参加 NGO の関係者、ボランティアなどであった。

6 集客人数または相談対応件数

相談対応件数：7件

イベント来場者数：約1,000人

7 所感及び効果等

会場入口の受付と並べて NGO 相談コーナーを設置したことにより、NGO 相談員制度の広報に寄与した。相談コーナーでの対面面接の形式による相談対応件数は7件であった。いずれも国際協力についての深い関心からの相談であり、時間をかけて丁寧な相談対応を行った。一方、これ以外にも会場内で気楽に国際協力や NGO マネージメント、NGO 相談員制度などについての質問を来場者や参加団体、ボランティアなどから受ける機会が多かったのは、イベント会場ならではの特性であると言える。連絡先を伝えて今後の相談に結び付いたケースも複数あった。

一方、催事におけるキャンペーンとして（1）TICAD V、（2）MDGs、（3）多文化共生、（4）東日本大震災復興支援の4つのテーマを掲げ、ロゴやポスターの掲示も会場内で実施した。国際協力に関わるテーマをわかりやすく提示することにより、来場者に関心を呼ぶことが出来た。地域からの国際協力についての発信をしていくことにより、日本国民の国際協力への支持がさらに高くなるように努めていきたい。



（左） NGO 相談コーナー



（右） 会場の様子



(左) TICDV キャンペーン



(右) 参加団体による復興支援報告会

以上

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「神戸NGO協議会」
※出張形態：セミナー
2. 出張者：井上理子（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2012年7月11日（水） 17:00～18:30
4. 場所：公益財団法人PHD協会
5. 対象者：神戸にあるNGO4団体（財団法人神戸学生青年センター、公益財団法人神戸YMCA、公益財団法人YWCA、公益財団法人PHD協会）
6. 実施報告：神戸NGO協議会とは、神戸にあるNGO団体間との情報交換や連携を図り、神戸地域の国際協力活動を促進する活動を行っている。主な活動としては数ヶ月に1回開催し、交代で発題者を決めている。今回は当協会が担当であったため、NGO相談員についての紹介と、今後このネットワークを通しての出張サービスや講演の可能性について話をした。まず、NGO相談員についての説明を行い、年次報告書を元実際にどのような相談者からこういった相談内容があるのかについて報告した。また月の件数状況、出張サービスはどういった機関での実施が多いか等について報告し、ここ数年は全体的に相談件数、出張サービス共に増加傾向にあるため今後こういった層への働きかけや連携の可能性についての意見交換を行った。

教育機関では国際協力に関する講演依頼先がなく困っているという相談を受けた団体があり、出張サービスの需要は多いにあると思うが、NGO相談員の認知度がまだまだ行き渡っていない部分があり、教育機関へのアプローチが有効であるとの意見があった。また、認知度を上げるために、大学であれば事務室等に送るのではなく担当者宛に送ることで資料がたらい回しにならないとのアドバイスもあった。

4団体のうちNGO相談員を知らなかった団体もあったが、今回を機に各団体の方から広報面の協力を得ることができ、NGO相談員の認知度の向上と、神戸地域への国際協力活動を促進が期待できる場となった。
7. 添付画像：写真撮影ができなかったため添付なし。

(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 24 年 7 月)

(ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名 : (特活) NGO 福岡ネットワーク

企画名 : 福岡市国際教育研究会

実施日時 : 平成 24 年 7 月 25 日 (水) 18 時 30 分 ~ 20 時 30 分

場所 : 福岡市立飯倉中央小学校 (福岡市早良区)

(イ) 実施内容

福岡市国際教育研究会 (以下 FIUEA) では「国際的視野に立ち、未来社会を生きぬく子どもを育てる国際教育」を研究テーマに掲げ、毎月定例会を開催し、様々な活動を展開している。今回の定例会では、NGO による開発教育活動の概要や授業での NGO の活用方法、学校と NGO の連携等に関する講演を行った。

(ウ) 集客人数または相談対応件数

参加者 : 14 人

相談件数 : 2 件

(エ) 所感及び効果等

発足して 20 年目を迎える FIUEA だが、これまで当団体とのつながりはさほど見られなかった。福岡市内の小中学校の教員によって構成される FIUEA は、国際教育の実践を一人でも多くの教員に広め、一般化して行く事を通して、21 世紀を共に生きる子どもが育つための国際理解教育のあり方の研究と教育の推進を図ることを目的としている。そのため、各学校では NGO 関係者を講師に招いての講演会などを実施しているが、あらかじめ決められたカリキュラムに沿った形での NGO への依頼・講演となっているケースが多くなっている。

これは NGO が取り組む開発教育活動について認識を持ち合わせていなかったり、授業を共に企画したいと考えてもどの団体にどのように依頼をすれば良いか把握していないことなどが原因と考えられる。そこで本出張サービスにおいては NGO の活動紹介ではなく、NGO が教育現場で取り組む開発教育活動や NGO と教育機関の連携の可能性に関する講演を行った。

上述の予想通り、FIUEA に参加する教員は国際理解教育に対する理解を有しているが、NGO の開発教育活動や NGO との連携方法については初めて聞く内容もあったようで、参考になったとの声が聞かれた。また、定例会に参加した市内小中学校の教員との繋がりが生まれ、教育現場の実情を伺い知ることができたことは今後の連携において大変参考になる貴重な時間であった。

福岡市は近年になって国際理解教育に力を入れ始めており、それに伴い FIUEA への期待が大きくなっている。これを FIUEA だけのチャンスと考えるのではなく当団体にとっても好機と捉え、FIUEA と協力して福岡市らしい国際理解教育を推進していきたいと考えている。

